

タイトル：私たちができること

本文：

私たちが住んでいる町、姫路市は新型コロナウイルスの影響によってさらに活気がなくなりつつあります。それに加えて、姫路市には多くの課題があります。

姫路市の街の顔である中心市街地は近年衰退しています。なぜ、衰退しているのか、「街の魅力」という視点から4つの課題を見つけました。1つ目は、商業の魅力の低下等がにぎわいと活力低下の一因となっていることです。2つ目は、増加傾向にある観光集客を活性化に十分できていないことです。3つ目は、播磨地方随一の都市機能集積が居住の魅力に直結していないことです。4つ目は、だれもが訪れやすく、移動しやすい環境設備が整っていないことです。これらの課題を解決することで、地域活性化につながると考えます。解決策として、キャストィ21エントラスゾーン整備事業があります。国内外から多くの人を訪れる都市の玄関口にふさわしく、皇室で利便性が高く、ゆとりと潤いにあふれた賑わいのある駅前空間とするため、姫路駅前広場を現在の2.5倍に拡張整備します。人が集い、憩い、また、イベントなどができる賑わいの空間として、現在の駅ビル撤去後の地下空間を活用し、新駅ビルの地下階と地下街とを結ぶサンクンガーデンを整備するとともに、バス、タクシー及び一般車乗降場を機能的に再配置し、歩行者デッキの整備など、公共交通機関の利用者が安全で快適に乗り継ぎができるように交通結節点機能の向上を図ります。ほかには、空き店舗対策事業として、空き店舗への出店に対する、従来からの家賃補助に加え、計画期間中は改装費補助を行うほか、空き店舗情報を積極的に発信します。そして、新たな魅力ある店舗棟の出店を促進し、商店街の魅力向上や来街者の回遊促進を図ります。このような取り組みは世界文化遺産である姫路城を核とする地域の特性を最大限に生かしたものです。しかし、これらは高校生ができるものではありません。私たち高校生には何ができるのでしょうか。私たち高校生には、大きなことはできませんが、地域活性化について学ぶことはできます。たとえば、SDGsを理解するためにカードゲームがあります。これは、与えられたお金と時間を使ってプロジェクトを活動していくというものです。SDGsを楽しみながらゲーム感覚で理解することができるツールです。しかし、カードゲームを実施するためには資格が必要となり、簡単に行うことができません。そこで、資格を持った方を紹介、派遣してもらいます。その方に、講演会を主催していただき、SDGsに関する講義を設けるといことも考えられます。カードゲームを実施することで、さらに講演会をしていただけるかもしれないという一石二鳥という結果になります。このようなプログラムなどに高校生が参加することで、SDGsへの取り組みが加速するのではないのでしょうか。また、高校生等を対象とした取り組みとして、多数の若者が姫路の街への思いや姫路の将来像について、語り合い、街づくりへの意識情勢を行うグループワーク形式のタウンミーティング「姫路創生カフェ」を開催しているので、参加することで姫路市の活性化への意識が高まります。

姫路市の特性・誇りである、「姫路城」をうまく生かしつつ、海・山・川など豊かな自然や秋祭りなどの伝統行事をさらに多くの人に知ってもらう必要があると私は考えます。私たち若者が将来姫路市に住みたいと思うような街にするためには、私たち若者が自分たちで街づくりを影響するべきなのです。新型コロナウイルスの影響でさらに衰退していく姫路市。このような時こそ、若者たちの出番です。街づくりや各種計画づくりへの参加の機会を増やし、少しでも多くの姫路市の情報を知り、若者ならではのアイデアを出し、活性化につなげるべきなのです。